

## 日本混相流学会 2012 年度第 4 回理事会・議事録

日時： 平成 24 年 3 月 2 日(土) 13:00-17:00

場所： (東京) 大阪ガーデンパレス 406 号室

出席者：

秋本肇(会長)、菱田公一(筆頭副会長)、道奥康治(副会長)、小泉安郎(副会長)、梅川尚嗣(情報部会長)、川原顕磨呂(企画部会長)、大川富雄(国際部会長)、呉田昌俊(総務部会長)、村井祐一(北海道地区担当)、尾池守(東北地区担当)、服部修次(北陸・信越地区担当、学生会担当)、梅田眞三郎(中国・四国地区担当)、吉野正人(混相流シンポジウム実行委員長)、加藤健司(大阪市立大学)、近藤健(事務局長)

議題と配布資料：

1. 前回議事録の確認 [資料 2012-4-01]
2. 評議員・監事選挙結果と会長選挙について [資料 2012-4-02]
3. 情報部会報告 [資料 2012-4-03]
4. 国際部会報告 [資料 2012-4-04]
5. 総務部会報告
  - ・(審議) 学会ホームページと維持会員との相互リンクの許可依頼について [資料 2012-4-05]
6. 混相流シンポジウム 2013 準備状況 [資料 2012-4-06]
  - ・3月号会告への第3回理事会審議結果の掲載について
7. その他審議・承認事項
  - ①ナノバブル標準化 WG について (菱田副会長) [資料 2012-4-07]
  - ②学会賞委員会の現状について (菱田学会賞選考委員長)
  - ③財務収支について
    - ・事務局費と学会年会費増額について [資料 2012-4-08]
    - ・財務検討委員会について
  - ④混相流シンポジウム 2014 以降の USB 媒体配付について (企画部会担当)
  - ⑤英文論文・国際化への対応について
8. 連絡事項

議事：

### 1. 報告事項

1. 1 資料 2012-4-01「前回議事録の確認」について、事前確認をしていることから、1週間後までにコメントがなければ承認することとした。(コメントがなかったため承認)。
1. 2 加藤選挙管理委員長から、資料 2012-4-02 により 2013 年度評議員・監事投票結果が報告され、承認された。呉田総務委員長から、資料 2012-4-02 に記載した次期会長選出のための評議員当選者宛文案について説明がなされ、承認された。
1. 3 梅川情報部会長から、資料 2012-4-03 により情報部会の活動報告がなされた。
1. 4 大川国際部会長から、資料 2012-4-04 により国際部会の活動報告がなされた。ICMF2013 での若手支援に関して 5 名に支援(合計 25 万円の助成金)される事が決定され、連絡・送金は事務局にお願いすることが承認された。今後は、アワードという見方で若手を募集することとし、次回以降また考えることとなった。

1. 5 呉田総務部会長から、資料 2012-4-05 により HP 上の相互リンク・バナーの許可依頼があったことが、報告された。リンクは無料で許可し、バナーは広告料 5 万円を申し受ける事とした。
1. 6 吉野混相流シンポジウム実行委員長から、資料 2012-4-06 により準備状況が報告された。菱田副会長から学術会議/土木委員会の池田俊介先生と学術会議/機械工学委員会の岸本喜久雄先生宛に、当学会 2012 年第 3 回理事会決定事項である“学術会議主催の提案をしない”旨の連絡が理由を付してなされ、また、道奥副会長から学術会議/建築土木委員会に連絡がなされ、学術会議側の了解が得られていることをメール審議し、本理事会で確認した。
1. 7 菱田副会長から、マイクロバブル・ナノバブルの標準化への道筋を検討するワーキンググループ（以下、WG と記す）に関する事実関係の確認報告がなされるとともに、矢部彰 WG 主査による答申（資料 2012-4-07）があった。本答申では、“検討を終えたため WG は解散することが望ましいと考える”とまとめられており、本理事会で WG を解散することを決定した。その後、会長名で総務委員長（事務局）から矢部 WG 主査と寺坂リエゾン委員長（兼 WG 幹事）宛に文書で決定事項を通知した。
1. 8 菱田学会賞選考委員長から、学会賞委員会の経過報告がなされた。3 月中に結論を出す予定であることが報告され、秋本会長はこれを了解した。

## 2. 承認・決定事項

2. 1 梅川情報部会長から、資料 2012-4-03 により広告掲載料と ICeM Corresponding Members について審議要請がなされた。審議の結果、印刷部数 850 部に対して現在の広告掲載料が高いため改訂する方向で検討することとなった。年間契約の場合、4 号分の価格にて 5 号（年間論文集発行数）の掲載ができることを承認した。また、維持会員は、半額とすることを承認した。3 月号に改訂した情報を載せることとした。ICeM Corresponding Members については見直しをおこなうものとし、併せて日本は編集を担当することから除外するとの提案がありこれを了解した。ICeM 委員長については従来通り、梅川編集委員長が兼務するものとした。
2. 2 小泉副会長から、資料 2012-4-08 により事務局費の見直しと学会年会費増額について提案が理由を付してなされた。両議題は関連が深いため、収支バランスに係わる議論として以下の様に意見があった。
  - ・（菱田副会長）会費でサステイナブルにしないといけない。8000～10000 円にしてもよい。160 万円という事務局費はとてつもなく安い。現在、正会員は 492 名であることを考えるべき。会費を上げるタイミングを考えないといけない。サービスを選別する時期と考える。特に国際部会はやりすぎ。ICeM はいるのか。委嘱状であるとか無駄な経費を洗い出して削減をする努力が必要。学術の交流としての役割は重要。
  - ・（小泉副会長）学会はボランティアベースであり、発表をしなくても企業などは情報収集の場となっており、そのような点も色々考えなければならない。一方、できないものは止めていくことが必要。仮に会費を値上げして 1 割の会員が退会をしたとして、学会を保てるかは疑問。
  - ・（道奥副会長）8000 円にしても（退会者ができることを予想すると）減収となりえる。事務局経費の増額は説明がつかないのではないかと。比較見積もりをとるなどできなかつた。制度設計としては大学並を目指していた。「こうした方がよい」との意見に対して反対しづらい傾向があり、このサイズの学会でも今に至っている。
  - ・（近藤事務局長）事務を簡素化し、金額に見合った仕事量とすることが必要。
  - ・（秋本会長）全体を見て整理して判断材料を増やして、議論をできるようにしたい。必要なこと、本当にやらなければならないことはある。引き続き議論をすることに決定。

### 3. 審議事項

- 3.1 混相流シンポジウム 2014 以降の USB 媒体配付について前回理事会に継続して審議がなされた。  
菱田副会長から、「紙（冊子体）だけ」か「USB+紙（冊子体）」の安価な方を選択するとの提案があった。電子媒体のメリットとして、地球に優しく検索ができるなどがある。メリットとなるのがサービス向上となる。価格について結果をメールで報告することとなった。  
本理事会後、吉野混相流シンポジウム実行委員長から 400 部を標準的な仕様で作成した場合、USB 媒体配付が最も安価（コストが冊子の半分以下）であるとともに、冊子の場合と比べて原稿提出締め切りが 1 ヶ月近く先に延ばすことができるメリットがある旨のメール配信がなされた。このため混相流シンポジウム 2013 実行委員会として、USB メモリでの配付を採用したい旨の要望が提示された。併せて、当日 USB メモリの使用が困難な参加者に対しては、CD 配付等の柔軟な対応を考えているとの配信があった。秋本会長はこれを受けて混相流シンポジウム 2013 で USB メモリにより配付がされることをメール配信により決定した。
- 3.2 英文論文・国際化への対応について審議し、以下の様な意見があった。
- ・（小泉副会長）和文から英文に翻訳した英文論文集はつくらない。
  - ・（菱田副会長）英文紙は出さない。MST とのコラボレーションなどがよい。ある特集・Japanese Research にして。IJMF は 3 割くらいしかアクセプトされない。IJMF, FD, IOPP など。
  - ・（高木総務委員会委員）日本語でしっかり書くことを大切にすべき。他に載せてもらうべき。
  - ・（秋本会長）インパクトファクターがつかないため投稿が期待できない。時前で英文誌を出さない事がコンセンサスとなっている。エルゼビア以外は菱田副会長が交渉をして、情報を整理して議論できるように菱田副会長に要請をされた。

### 4. 連絡事項

第 5 回理事会を以下の日時で開催することを確認した。

日時： 平成 25 年 7 月 13 日（土）13:00-17:00

場所： （東京）関西大学東京センター 9 階会議室

以上

総務委員長：呉田 昌俊